

企業による環境配慮的活動と シグナリング

2022年8月1日

ゆうちょ財団報告会

筑波大学 作道真理

はじめに

- 企業の社会的責任・貢献活動についての社会からの関心の高まり
- 環境配慮的活動は、社会的責任（CSR）活動の一形態
- CSR 活動は社会的資本と信頼を生み出すと考えられる
- 企業の社会的貢献活動が企業パフォーマンスに与える影響は理論的には正にも負にもなる
- 実証的に一致した結論は得られていない
- CSRの尺度の問題が指摘されている
- CSR指標に関する研究の必要性

- CSR尺度に関する他の研究とは異なり、CSRの情報の非対称性の存在に着目
- 質の高いCSRの企業は信頼を得るためにシグナルを送るインセンティブがある

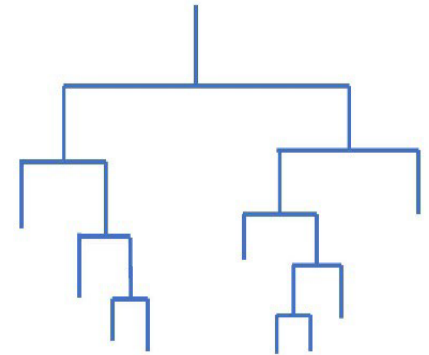


- 実際のCSR活動と情報開示に正の相関があるはず
- 統合報告の発行とESG情報の開示について、機械学習の統計的手法で検証
- 分析の結果：シグナリング理論と整合的

手法

- 決定木による機械学習の手法
- 教師ありデータを用いて説明変数の空間を分割して分類
- 再帰的な2分割法を使用
- 木の下の方に葉に向かって2本の枝を伸ばす

木の構造モデル



データ

- CSR情報の開示行動
 - ✓ 統合報告書の発行
 - ✓ ESG（環境、社会、ガバナンス）情報の開示

- 実際のCSR活動
 - ✓ 環境方針文書の有無
 - ✓ 環境会計の有無
 - ✓ 環境保全コスト合計
 - ✓ 総エネルギー投入量
等々

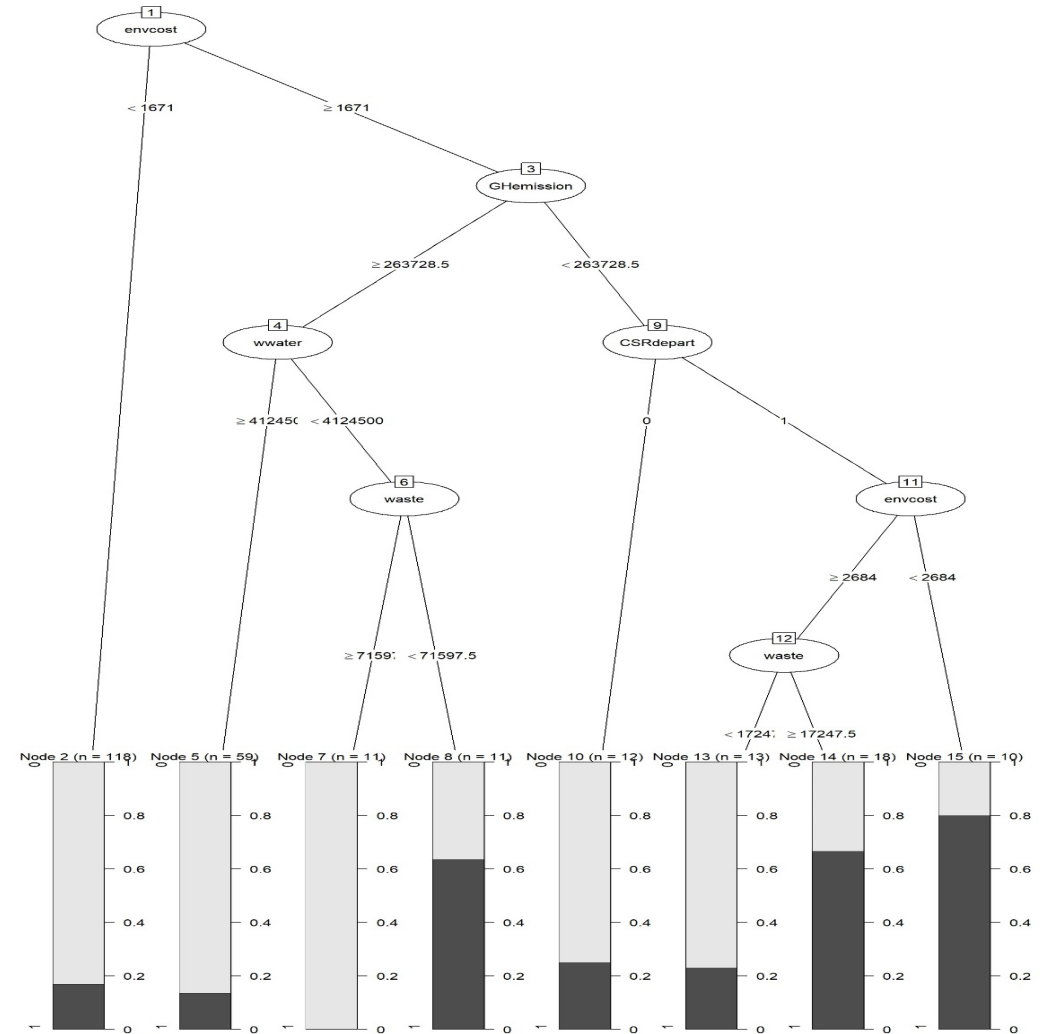
結果

- 統合報告書の発行について

量的変数の説明力が高い

温室効果ガス排出量、
廃棄物等総排出量、
総エネルギー投入量、
環境保全のための費用、
総排水量

実際に環境配慮的な企業ほど
発行する傾向

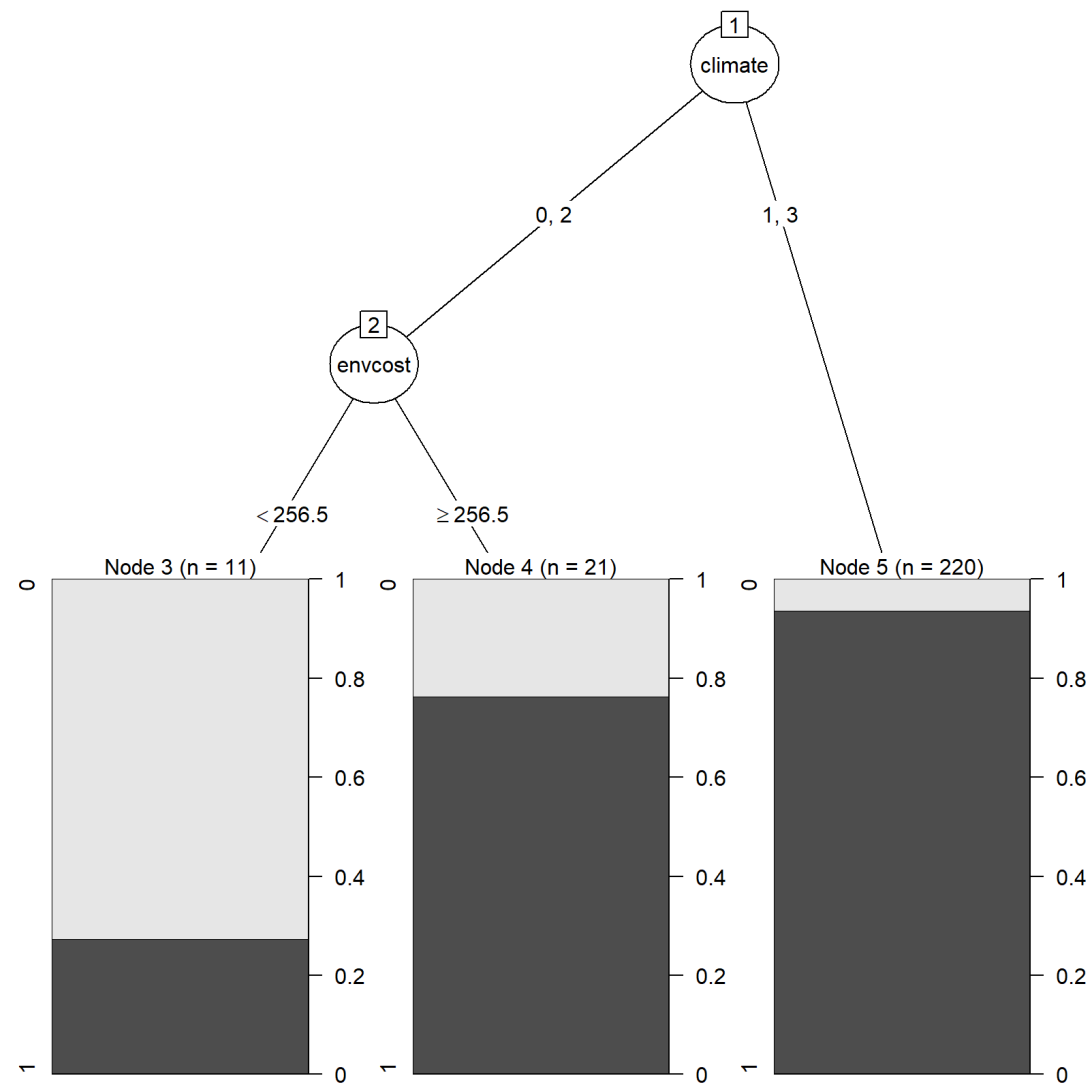


- ESG情報の開示について

重要な説明変数

気候変動対応についての取り組み
環境保全コスト合計

実際に環境配慮的な企業ほど
情報を開示する傾向



まとめ

- CSR活動の内容や程度に関する情報の非対称性が存在する
- 統合報告書の発行や ESG 開示行動が果たすシグナリングの役割に着目
- CSR情報開示と実際の活動の関係を統計的機械学習の手法により検証
- 開示行動と企業パフォーマンスの関係がシグナリング理論と整合的であることが示唆された